

船舶事故調査報告書

平成23年1月20日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年4月25日（日） 10時50分ごろ
発生場所	兵庫県豊岡市円山川の港大橋付近 猿ヶ城灯台から真方位215° 1,870m付近 （概位 北緯35° 38.5′ 東経134° 49.6′）
事故調査の経過	平成22年8月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A モーターボート ^{おうしやう} 王将、5トン未満 251-19052兵庫、個人所有 6.39m (Lr) × 2.10m × 0.95m、FRP ガソリン機関、51.49kW、平成13年2月 B モーターボート ^{はまきゆう} HAMAKI YU、5トン未満 251-18237兵庫、個人所有 5.58m (Lr) × 1.98m × 0.84m、FRP ガソリン機関、29.42kW、平成10年9月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 71歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年2月6日 免許証交付日 平成21年3月25日 （平成27年3月24日まで有効） B 船長B 男性 66歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成12年9月11日 免許証交付日 平成21年12月7日 （平成27年9月10日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	A 左舷船首に擦過傷 B 右舷船尾ブルワーク損傷
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、円山川の係留地から同川の右岸寄りを河口に向けて、約13ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で北東進した。 船長Aは、円山川に架かる港大橋付近に差し掛かったとき、左舷前方50m以上離れたところにB船を視認し、B船とはかなり距離が離れているので、同じ橋脚間を通過することはないと思い、B船の右舷側を追い越す態勢で右岸側の橋脚間に向けて航行した。

	<p>A船は、港大橋に接近したところ、船長Aが、同橋上で釣っている人の釣糸が垂れ下がっていることがあるので、釣糸を探すことに気を取られ、左舷側の見張りを行っていなかったことから、B船に接近していることに気付かずに航行中、平成22年4月25日10時50分ごろ、港大橋の直下において、A船の左舷船首部とB船の右舷船尾部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長Bほか1人が乗船し、円山川河口の右岸寄りを約10.5knの速力で、日本海に向けて北東進した。</p> <p>B船は、港大橋の右岸側の橋脚間に向けて航行し、船長Bが、後方を見張りを行っていなかったことから、右舷後方から接近するA船に気付かずに航行中、A船と衝突した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 なし</p>	
その他の事項	<p>船長Aは、これまでも港大橋の下を通過する際、港大橋上で釣っている人の釣糸が垂れ下がっていることがあり、また、釣具がA船に向けて投入された経験があることから、港大橋の下を航行する際には、釣人や釣糸の有無に注意を払っていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、円山川の港大橋付近を河口に向けて北東進中、船長Aが、左舷前方のB船とはかなり距離が離れているので、同じ橋脚間を通過することはないと思込み、同橋から垂れ下がっている釣糸を探すことに意識を集中し、B船に対する適切な見張りを行っていなかったことから、B船に接近していることに気付かずに航行し、衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、円山川の港大橋付近を河口に向けて北東進中、船長Bが、後方の適切な見張りを行っていなかったことから、右舷後方から接近するA船に気付かずに航行し、衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、両船が円山川の港大橋付近を河口に向けて北東進中、船長Aが、B船に対する適切な見張りを行わず、また、船長Bが、後方の適切な見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	